

# 島根県西部海域における着床式採苗器によるイタヤガイ天然採苗の試み\* (抄録)

吉尾二郎・梶 明広

近年、県下のイタヤガイ養殖規模は300万個に達しているが、これらの種苗は生産地周辺の海域で天然採苗により採集されている。しかし、養殖規模の拡大に伴い種苗の必要量が増大する一方、採苗数の年変動が大きく、種苗の安定確保が困難な状況にある。

従来、採苗器は玉葱袋に古網等の付着材を入れたものが一般的であり、水深20～40 mの海域に垂下される。玉葱袋1袋当りの採苗数は平均200個程度である。

筆者らは、従来の採苗方法とはスタイルの異なる着床式採苗器による天然採苗を島根県西部の海域で試み、若干の成果を収めた。詳細は栽培漁業技術開発研究('86 日裁協)を参照されたい。

## 概 要

大野式採苗器A, B, C型を用い採苗を行い、総計21.8万個の稚貝を採集した。採苗器1基当りの死貝を含めた平均採苗数は、A型2,314個体、B型4,413個体、C型3,875個体であり、枠内にモジ網を水平多段に配置したB型の成績がすぐれ、同海域に設置された玉葱袋採苗器56袋分に相当した。

---

\* 栽培漁業技術開発研究(日本栽培漁業協会 1986)に発表した。